



東西しらかわ小学校長会 広報部

第 11 号 令和5年 6月 28日
発行人 会長 室井 博人

助け合い、連携してよりよい学校経営を

東西しらかわ小学校長会長 室井 博人
(白河市立白河第三小学校長)

今年度は、5月8日から新型コロナウイルスが第5類となることから、学校においても4月6日入学式からはマスクの着用は個人の判断となりました。しかし、ウイルスがなくなったわけではなく、相変わらず感染者もいる状況の中、子ども達も今までと同じようにマスクを着用している子が多く見られます。

このような中、令和5年度の東西しらかわ小学校長会は、新任者4名を含む9名の新会員を迎え、支会としての活動をスタートさせることができました。今年度も横のつながりを大切に、34名がそれぞれの学校とともに東西しらかわの子ども達のために努力していきましょう。

さて、アフターコロナにより「三年ぶりに～」という言葉聞く機会が増えてきました。授業参観後のPTA総会や学級懇談会などできる限り密にならない工夫をしながら以前と同様の開催にこぎ着けることができた学校が多かったようです。学校によっては、四年前の取組を覚えている職員がほとんどいない状況の中、活動を一から作り直すなどということが起こるかもしれません。以前と同じに戻すかどうかは非常に頭の痛い問題です。コロナ渦の中でできる限り活動を制限したり、集まらずに文書による決議を行ったりした結果、学校における「働き方改革」が進みました。「働き方改革」＝「教員が楽をする」は議論の余地が

ありますが、しかし、この状況に慣れてしまった中で前のように戻すということには少なからず抵抗があることが予想されます。

学校内での調整、保護者への周知と理解、地域との兼ね合い等、昨年度までは「コロナだから」と簡素化してそれですんだ内容も、今一度原点に立ち返り見つめ直す必要が出てきました。

先日県の校長会理事会において各支部の課題について話し合いました。アフターコロナの問題はもちろんです、どの地域でも同じような課題が見られました。その中でも特に多かったものは、「教員(講師)不足」「管理職候補者の育成」「人材育成」「働き方改革」「アフターコロナの対応」「ICT教育の取組」「特別支援教育」等です。

校長の役割、そして判断はさらに重要性を増しています。よく「校長が代われば学校が変わる」と言われます。校長が代わるタイミングで今まで懸案の事項を一気に変えて推し進めようとする場合と新しく代わった校長が、今までの方法から自分なりの方法に押し通す場合と二つのことが考えられます。この二つはどちらも負のイメージがつきまといまいます。しかし、学校を変えるのはやはり最終的には校長の判断です。そのためには、「校長が代われば」ではなく、「校長が変われば学校も変わる」にしなければならぬのだと感じています。校長こそが学校の中で一番に、学び変化していくことが大切と考えます。

今、上記のように学校には数々の問題が山積しています。「目の前の子ども達のために」を第一として、様々な状況を捉え、適切に判断し教育活動を推進していく能力と判断力が校長には求められています。

仏教用語に「一燈照隅」という言葉があります。「一隅を照らす小さな灯火でも、増えれば国中を明るく照らす。」個々人が自分の置かれている立場で精一杯努力することが組織全体では大切だという意味です。個々の校長の力は微々たるものかもしれませんが、学校をよりよくしようと努力する校長が結集すれば、東西しらかわの小学校は、明るい光に満ちあふれるに違いないと信じます。そのためにも様々な情報を連絡し合い、協力し合うことが重要と考えます。今年1年間34名が一致団結してよりよい学校を目指し頑張っていましよう。

コロナ禍に思い起こされたこと

期待の登校、満足の下校

東西しらかわ小学校長会副会長 小川 洋太郎
(白河市立みさか小学校長)

新型コロナウイルス感染症が5類感染症へ移行され、教育活動制限が緩和された今、改めて貴重な経験だったと思い起こされることがあります。

今から10年以上前、私が小規模校のY小学校に教頭として勤務していた時のことです。当時、Y小学校では、文部科学省による豊かな体験活動推進事業の指定を受けており、私は農村体験活動の引率者として、喜多方方面に行く機会を得ました。期間は4泊5日、宿泊先は喜多方市の民泊農家でした。体験活動の柱としたのは農業体験と伝統文化体験です。5・6年生がグループ毎に、農家に民泊しながら、果物の摘果やアスパラ収穫、歴史散策や蒔絵体験などの活動を行いました。民泊することを不安がっていた子どもたちも、農家の方の温かさに触れ、2日目以降は生き生きと活動していたことが思い出されます。体験プログラムが、子どもたちにとって価値ある活動であったことは言うまでもありませんが、学びをより充実したものにしてくれたのは、農家の方々の存在であったと記憶しています。子どもたちは、農家の方々との交流を通して、農家の方の生き方や考え方、地域に対する思いにふれ、「生きる営みの大切さ」「歴史や自然と暮らしの結びつきの理解」「伝統文化を守り伝えることの大切さ」を学んでいたように思います。

コロナ禍の3年間は、様々な行事や体験・交流を伴う活動が制限を受け、学校現場においても直接体験の場が減少し、学びの中において人と人とのつながりが希薄になったと言われていました。一方で、対面指導や子ども同士の学び合い、地域における体験活動などリアルな体験を通じて学ぶことの重要性が再認識されたとも言われています。私自身も、心の成長も含めた学びという点から、学校現場においても、体験や交流、人とのつながりを大切にしたいと強く感じた期間であったように思います。

コロナ収束後も、教育のデジタル化や学習者主体の教育等、新たな視点での教育が求められることとありますが、学校は豊かな人間性を育む場でもあることを忘れることなく、学校経営に当たっていききたいと思います。校長先生方、今年度もよろしくお願ひいたします。

白河市立白河第一小学校長 西牧 泰彦
時の流れは同じであるはずなのに、かつて教員になった時代よりも、学校を取り巻く状況はめまぐるしく変化する時代となってしまいました。

新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う、全国一斉の臨時休業により、様々な影響がありましたが、その中で、学校という存在が如何に重要であるかを、世界規模で再認識した機会ともなりました。当たり前のようにして学校の教育活動が行われ、当たり前のようにして子どもが学ぶという光景が、これほどまでに幸せに感じられたことはなかったのではないかと思います。

前例なき環境のもと前例なき教育が展開される中、その状況の変化に柔軟に対応しながらも、「不易と流行」の視点に立った、教育の本質を求める見方・考え方を見失わないようにしなければならないと強く感じています。学校の存在意義をさらに価値づける意味においても、学校に子どもが集まって学習すること、子どもと子ども、子どもと教師が学び合うことを大切にしたい学校を創造していくことを大切にしたいと考えます。

「期待の登校・満足の下校」をスローガンに令和5年度の学校経営をスタートさせました。学校行事やそれぞれの教育活動について、全教職員で「何のために、なぜやるのか」を問い直し、それぞれの価値や意義をあらためて見出し、教職員の特性と組織を生かして、教育活動の充実・改善にあたっていきたいと考えています。実践においては、「対話と協働」をキーワードに、白河一小としての教育の在り方や目指す子どもの姿を、対話を通してしっかりと共有するとともに、協働し、常に原点に立ち返りながら、省察を行い、さらに協働していくことで、教育の質のアップデートを図っていききたいと考えます。

「学び続ける教師こそが教える場に立てる」これは、本校に代々伝えられてきた教師の心構えを示す言葉です。また、先輩校長からは、「学び続ける校長から伸びようとする教員が生まれ、伸びようとする教員の姿を見て、伸びる子どもが育つ」と教えていただきました。問いを持ち、学び続けることで、一つ一つの課題を解決し、「期待の登校・満足の下校」の実現を目指したいと考えます。

「歩くからこそ」

地域の学校として

白河市立白河第二小学校長 稲川 竜寿

この原稿は5月下旬に書いています。黄色い横断旗を手に、たまに歩いて通勤しています。南湖を越え、田植えの終わったあぜ道を抜け、自然の豊かさを感じています。あぜ道では早々とシオカラトンボも見つけました。つがいのキジを見かけたこともあります。住宅地では庭に真っ赤なバラや紫のアヤメの花が咲いてとてもきれいです。

学区に入ると、ご年配の見守り隊の皆さんが歩道に立って子どもたちの登校を見守ってくれています。その数の多さには驚きでした。登校班では何人もの保護者の方に学校まで一緒に歩いていただいています。感謝です。交通量の多い道路を歩いて登校していますので、安全確保の面でとても安心です。地域に大切にされている子どもたちを預かっている責任の大きさを実感します。

登校班は上級生が1年生に合わせてゆっくりと歩いてくれています。1年生は大きなランドセルをしょいながら汗をかきかき、水筒の水を飲みながら一所懸命に学校に向かってきます。4月よりはずいぶんと歩けるようになってきました。

歩いて通勤することで、見守り隊や保護者の方にお礼の気持ちを伝えることができます。地域の方と世間話をするのも少なくなく、少し身近になれたようにも感じます。また、登校班の上級生にはねぎらいの言葉かけができます。1年生には荷物が重くないか、学校で楽しいことは何かなどお話をすることができます。子どもたちが元気かどうか様子を見ることもできます。最近、遠くから私の姿を見つけた子どもたちが「校長先生。おはようございます。」と大声で手をふってくれることがあります。街中なので少し恥ずかしくもありますが、そこはぐっとこらえてこちらも元気に「おはよう。」と返事を返して応えています。

ここの歩道が少し狭い。ここの道路の横断は気をつけないといけない。など、通学路の安全についても歩くからこそ気づくものがあります。

これからも天気の良い日は、時々、いろいろな通学路を歩いて通勤したいと考えています。果たして、「南至」が発行される頃、暑さに負けてエアコンの効いた車で通勤していないか見物です。

白河市立五箇小学校長 鈴木 純子

五箇小学校の教育目標は、

- 一 みんなで仲よく 勉強する子ども
- 二 力をあわせて がんばる子ども
- 三 自分も人も だいにする子ども です。

これは、五箇小学校に伝統として伝わる「三つのちかい」と同じです。驚くことに、この「三つのちかい」を保護者の方々は諳んじることができます。恐らく、おじいさんやおばあさん、地区の方々も諳んじることができるでしょう。五箇小学校で学んだ子どもたちは、皆、この「三つのちかい」を目標に学び、教職員は教育活動を行ってきたのだと考えます。

この「三つのちかい」を教育目標とすることで、児童、保護者、教職員だけでなく、地域の方々とも目指す児童像を共有し、学校と地域が一つになって五箇の子どもたちを育てることができます。五箇小学校に着任して感じた地域の教育力は、この「三つのちかい」が脈々と受け継がれているからだと思います。

五箇小学校に脈々と受け継がれる伝統は、これだけではありません。

子どもたちは、登校中道路を横断する時に止まってくださった運転手の方に「ありがとうございます。」とあいさつをします。帽子を取り、礼をする班長もいます。また、最後の横断歩道を渡りきると、見守り隊の方にも「ありがとうございます。」と一礼をして学校へと向かいます。

この上級生の姿を見ている下級生は、次に自分が上級生となった時に「ありがとうございます。」と、きっとあいさつをするでしょう。五箇小学校の「あいさつ」も受け継がれている伝統の一つです。

伝統ある五箇小学校と伝統を受け継ぐ五箇小学校の子どもたちを地域の皆さんは誇りに思っています。まさに、地域の学校であり、地域の子どものとして、大切に育てられているのです。このような地域の期待に、子どもたちの生き生きとした笑顔の姿で応えることができるよう、先生方と共に微力ながら努力してまいります。

東西しらかわ小学校長会の皆様、どうぞよろしくお願いいたします。

たくさんの笑顔を目指して

「成長」～熊倉小モニュメントから～

白河市立大信小学校長 仁科 篤弘

白河第二小学校に教頭として4年間勤務し、校長昇任となり会津美里町立新鶴小学校で2年間校長として勤務して参りました。会津美里町は、伊佐須美神社や中田観音などがあり、米やぶどう、りんごなどが特産の町でした。会津地区の学校での勤務は初めてでありましたが、両沼地区の校長先生方にはとても親切にいただき、無事に2年間勤務することができました。

4月より白河市立大信小学校に着任することができました。最初の東西しらかわ小学校長会では、たくさんの校長先生方からお声をかけていただきとてもありがたかったです。

さて、大信小学校は開校2年目の学校です。令和4年度に、信夫第一小学校、信夫第二小学校、大屋小学校が統合しました。子どもたちは元気にあいさつすること、良い姿勢で集会に参加できること、返事がしっかりできることなどが素晴らしく、統合1年目に先生方がきめ細やかな指導をいただいたことを感じました。

また、昨年度は校歌も新しくなり、作詞作曲を歌手の Yammy さんに行っていただきました。Yammy さんは信夫第一小学校の卒業生で現在も音楽活動を行っています。1番の歌詞の中に「みんなで歩くこの道 笑顔に」というフレーズがあります。子どもたちが希望を持って登校し、笑顔で生活する、そして満足して家庭に帰る、そんな学校経営を行っていきたくて考えています。毎日、子どもたちの笑顔がたくさん見られるような大信小学校にしていきたいと気を引き締めています。

開校2年目でまだまだ課題もありますが、教職員が熱心で前向きな学校です。学校の主役である子どもたちを第一に考えた教育活動が進められるように「チーム大信」で取り組んで参ります。自分自身も校長として研修を積極的に行い、子どもたちや先生方にふさわしい校長になれるように精進していきたいと思えます。

今後とも東西しらかわ小学校長会の先生方のご指導・ご鞭撻を受けたり、情報交換をさせていただいたりしながら学校経営を進めて参りますのでどうぞよろしくお願い申し上げます。

西郷村立熊倉小学校長 山川 晃司

6年前まで教頭として勤務していた熊倉小学校に再び勤務することができる喜びを感じながら、3ヵ月が経ちました。当時在籍していた子ども達はみんな卒業し、同僚だった職員もほとんどが異動しましたが、保護者や地域の方々の温かいご支援は全く変わっておらず、「地域と共にある学校」として益々発展していることにもうれしさを感じております。

そんな本校の校長室からは、6年間の子どもの成長を高さの異なる6本の六角形で表現した「成長」という名のモニュメントが堂々と建っているのを見ることができます。これを機に、改めて「成長」とは何かということを自問しながらも、ネット検索をしてみると実に多様な解釈や使われ方があることを知りました。その中で、私が気に入った格言の一つが「挑戦して失敗することも立派な成長である。成功の反意語は失敗ではなく『挑戦しなかったこと』である」というものです。これは、「挑戦して成功すれば技術の習得や経験値、自信などを得ることができるし、仮に失敗したとしてもやはり経験値を得ているので、挑戦する時点で既に成長を手に入れている」ということを意味したものであると思えます。

さて、西郷村の歴代教育長様は校長会や教頭会の折に必ず「プラスワンアクション」ということをお話なさられています。今回、校長室からモニュメントを見ながら成長という言葉について改めて考えることを通して、この言葉は学校経営における挑戦であり、そして成長であると深く捉え直すことができたように思えます。

子ども達には、自分の成長を目指して何事にも主体的に取り組むことを促すとともに、私自身も子ども達のよりよい成長のために学校経営における挑戦、すなわち学校の成長を目指した努力を絶えず行っていく所存です。

末筆ながら、東西しらかわ小学校長会の皆様方には、他管内から県南に戻ってからの3ヵ月間、常に温かいご助言・ご指導をいただきましたことに心より御礼申し上げます。本会の一会員として、微力ながら精一杯努力して参りますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

「必然」への感謝を胸に

心の美しい子ども

中島村立滑津小学校長 柳沼 典正

4月下旬に行われた「新任校長・副校長研修会」。その最初の講話「新任校長に期待すること」の中で、講師の先生が冒頭にお話した言葉が強く印象に残っています。

「汝 何のために 其処に在り也。」そして「今の学校に勤務しているのは、決して偶然でなく必然である。」

この言葉を耳にした瞬間、身震いがしました。

滑津小には、約20年前に教諭として勤務したことがあります。当時は、まだ30代と若く、担任をはじめ体育主任、生徒指導主事、教務主任を仰せつかり、教員としてのスキルを高めることができた学校。また、ソフトボールスポ少が盛んで、子ども達の活躍を先生方で応援に行き、勝てば祝勝会、負ければ反省会と子ども達や保護者と交流が深かった思い出一杯の学校。

その滑津小に新任校長として赴任できる喜びは、何ものにも代え難く、言葉にできないくらいのうれしさと共に、「決して偶然でなく必然」であることへの感謝の念とその期待に応えたいという強い思いを抱いています。

早速、最初の職員会議で、中島村重点5項目と本校教育目標の具現化へ向けて、「チーム滑津」を合い言葉に、組織の力を生かして努力し続ける学校にしたいこと。そして、以下の3つを大切にしたい学校を目指すことを先生方に話をしました。

○子どもの成長を第一に考える学校

○夢や希望を育み、笑顔あふれる学校

○子ども、保護者、地域から信頼される学校

特に、子ども、保護者、地域の方々、先生方との「対話」を大切にしながら、滑津小、中島村、福島県の子ども達が、健やかに成長できるように、学校経営を全うしていきたいと思えます。

余談ですが、赴任後最初の週末に、20年前にお世話になった校長先生、PTA会長さん、保護者の皆様にご挨拶に行き参りました。皆さん、笑顔で迎えていただき、「必然」の喜びをさらに深めることができました。

結びに、東西しらかわ小学校長会の皆様には、今後ご指導・ご助言をいただきますよう、よろしくお願ひいたします。

矢吹町立矢吹小学校長 深谷 麻紀

矢吹小学校の教育目標は、『心の美しい子ども』。『心が美しい』の捉え方は様々あると思いますが、矢吹小学校の子どもたちを見ていると、心の美しさを感じる瞬間がたくさんあります。

例えば、あいさつ。『語先後礼』が習慣化しており、その場で立ち止まり、礼をしてあいさつする子どもがたくさんいます。清々しいあいさつに、子どもたちから朝の活力をもらっています。

また、素直で子どもらしい子どもが多いことも矢吹小学校の良いところだと捉えています。

「校長先生、あさがおの芽がでました。」

「算数教えてくれてありがとうございます。」

自分の思いを自分の言葉で一生懸命伝えようとする子どもたちは本当にかわいいものです。つつい自分の仕事を後回しにして子どもたちの話を聞いてしまいます。子どもとのふれ合いの時間は、私にとって何よりの癒やしの時間です。

しかし、現代の子どもたちが置かれている環境は、課題が山積しています。予測不能な社会の中で生きていく子どもたちにとって、時に心が折れそうな時もあると思います。だからこそ、我々大人が、子どもたち一人一人を認め、伸ばさなければならぬと強く思います。

ある子どもが玄関で靴そろえをしていました。係の仕事かと尋ねてみると、

「違います。でも、みんなに〇がつくように、靴をそろえに来ました。」

と答えてくれました。学級の友だちのためにそつと靴をそろえる姿を大いに称賛したのは言うまでもありません。

子どもはそれぞれが自分なりの考えをもち、少しでも良い方向に成長しようと努力しています。そんな一人一人の行いを見逃さず、価値付けしながら称賛していく。子どもたちがもっている心の美しさを引き出してあげることが私たち教職員の仕事だと改めて感じさせられた出来事でした。

今年度は、矢吹小学校創立150周年の記念の年です。元気で明るく『心の美しい』子どもたちとともに、歴史と伝統のある学校を笑顔あふれる学校にすべく、教職員と力を合わせ、微力ながら一生懸命努力をしまります。

地域とともに

「守る」ということ

棚倉町立高野小学校長 池田 和紀

埴町立笹原小学校長 菅野 信広

地域の方が、例年より1週間は早いという満開の桜が、4月3日着任の日、我々を迎えてくれました。全児童32名と聞いていましたが、鉄筋3階建ての校舎があまりにも立派で、小規模校ということのを忘れさせるようでした。

初めての県南地区、校長として初めての学校、そして教頭以来、2度目の単身赴任。そのどれもが不安要素ばかりで、同じ条件で着任した教頭1年目の時のようなワクワク感はなく、しばらくは緊張の連続でした。しかし、そんな自分を救ってくれたのが、高野っ子32名の笑顔であり、職場同僚の温かな雰囲気であり、身近な存在である棚倉町校長会の皆様のご助言でありました。本当に感謝の思いでいっぱいです。

高野小学校は、今年で150年という大きな節目を迎えることになりました。6月10日(土)には、多くの来賓及び地域の方々に参加いただき、盛大に式典を開催することができました。着任して2ヶ月という短期間での大イベントでした。そのおかげもあり、自分はこの日に向けて、保護者や地域の方と触れあう機会を多くいただきました。そして、その度ごとに感じたのは、実に多くの方が地域を愛する気持ちが強いということです。保護者や地域の方々のこの熱い思いが土台となり、歴史と伝統ある、この高野小学校を築いたのだと思っております。

「子どもたちはもちろんのこと、保護者や地域の方々にも愛される高野小学校でありたい。」さまざまな出会いを通して、そう強く思うようになりました。そのためにも、自分自身が今よりも成長できるよう、様々なことを貪欲に吸収していく決意です。

近々、3、4年生の総合学習で「校歌ツアー」なるものが予定されております。これは、校歌の歌詞に出てくる場所を訪ねるという学習です。地元の方を講師として招き行うことになっていきます。久慈川や八溝山、そして不動滝。さらに地域を知るチャンスだと、今から胸を躍らせている毎日です。

東西しらかわ小学校長会の皆様には、今後ともご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。

4月中旬、1年生の生活科の学校探検で校長室にやってきた子どもたちに、「校長先生はどんなお仕事をしているんですか？」という質問をされました。

その質問を受けた私は、1年生にわかるような内容や言葉で伝えなければならないと思い、少し考えた後、「校長先生は、学校の子どもたち、先生、学校の建物などを守るお仕事をしているんですよ。だから、朝、学校の前で交通指導をしたり、みんながきちんと授業を受けることができているかな、危ない場所はないかなと見回ったりしているんだよ。」と答えました。そして、この答えを聞いた一人の子に「校長先生は、みんなを守っているヒーローみたいだね」と言われました。赴任したばかりの私は、このやりとりを通して、校長としての使命感や責任感の重みを更に自覚することとなりました。

また、保護者や歴代のPTA会長、学校運営協議会委員など出会う方々から、「ダリアやこんにゃくの栽培活動」「弘法太鼓・川上太鼓の継承活動」など笹原小学校としてこれまで大切にしてきた取組の様子を伝えられ、それにかける熱い思いや願いにふれる度に、脈々とつながっている笹原小学校の伝統を守っていかなければならないという思いに掻き立てられるようになってきました。

今、赴任して約3ヶ月を過ぎる中、笹原小学校の校長として守らなければならないことが1つ1つ明らかになってきているように感じています。そして、大切なのは、それらを守るためにどのような取組を学校全体として行っていけるようになるかだと思っております。また、ウルトラマンや仮面ライダー、戦隊ものなどの歴代のヒーローが、時代によって変わってくる敵に対して戦法や武器などを変えながら戦っているように、時代に合わせて、学校の守り方も変えながら取り組んでいかなければならないと思っております。

そのためにも、日々、学校の安全・安心そして伝統を守っておられる東西しらかわ小学校長会の皆様からご指導いただき、努力してまいりたいと思っております。どうぞ、よろしく願いいたします。